

永井医院ニュース

LIFE 60



ライフ

2019年2月号

No. 60

発行／最上郡最上町向町536-9

内科・循環器科

医療法人 永井医院

TEL.0233-46-1511

<http://www.nagai-clinic.or.jp>

特集：麻疹・風疹

どうして社会問題になっているのでしょうか？

麻疹は空気感染と合併症がこわい
風疹は先天性風疹症候群がこわい

キーワードは **予防接種** と **抗体価**

麻疹（はしか）

院長 永井俊一

最近麻疹が流行しているというニュースを見かけ、抗体検査を受けに来る方もいらっしゃいます。山形県でも 2017 年に麻疹の流行があり、60 人が感染して県内では大きなニュースになりました。どうして麻疹の流行がそんなに問題になるのでしょうか。それは麻疹ウイルスの感染力が非常に強く、死亡や合併症をおこす率も高い病気だからです。

一般のかぜはもちろんインフルエンザでさえ、ウイルスの感染は接触感染やひまつ感染（咳やくしゃみの時に飛び散る微細なしぶきによる感染）によって起こります。これらは手洗いやうがいを励行することである程度防ぐことができます。しかし麻疹ウイルスは非常に小さくて軽いため、ウイルスが地上に落下しないで空気中を浮遊し、それを吸い込んでしまうことで感染してしまいます（空気感染）。つまり麻疹に感染した患者さんと接触がなくても、同じ部屋にいただけ、同じ電車や飛行機に乗っただけで感染してしまうということです。ですので、麻疹患者さんは疑いの段階でもすぐに隔離しなければなりません。

典型的な麻疹の症状は 発熱、風邪症状、発疹の 3 つです。潜伏期間（ウイルスをもらってから発病するまでの期間）は 10～12 日です。

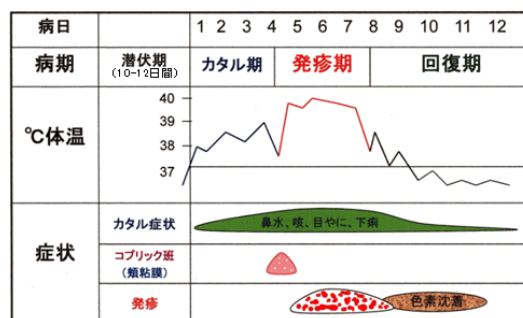
初期（カタル期）：①38℃前後の発熱、②かぜ症状（咳、鼻、くしゃみ）、

③目の充血や目やに、④口の中に白色の小さなぶつぶつが出る

中期（発疹期）：39℃を超える高熱と、頭頸部より発疹が出現して全身に広がる

後期（回復期）：発疹は黒ずんだ色素沈着となり、しばらく残る

* カタル期が最も感染力が強い時期となっており、カタル期で麻疹であることに気づかずに行動することが、感染を広げる原因となります。



麻疹の合併症

①肺炎は 10 人に 1 人の割合で発症し、うち 1%（発展途上国においては 10～30%）が死亡します。死亡するのは幼児がほとんどです。

②脳炎脳症 は 1,000 人に 1 人の割合で発症し、10%が死亡、70%に精神発達遅延やけいれん、片麻痺などの後遺症を残します。

③遅発性脳炎は 10 万人に 1 人の割合で、感染から平均数年後に発症し、のちほぼ全員が植物状態となって死亡します。多くは 2 歳以下に感染した小児です。

* 麻疹で死亡する割合は先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。

* 妊娠中に麻疹に感染すると流産・早産・死産が 30～40%の確率で起こるので注意が必要です。

麻疹を防ぐにはマスクやうがい、手洗いでは不十分で、予防接種により免疫を作ることが最も確実です。国による予防接種は、昭和 54 年 4 月 2 日以降に生まれた人から行われています。その勧め通りに接種した場合の接種回数は下記の通りになります。

昭和 54 年 4 月 1 日以前に生まれた人・・・・・・・・・・ 0 回

昭和 54 年 4 月 2 日～平成 2 年 4 月 1 日に生まれた人・・・・・・・・ 1 回

平成 2 年 4 月 2 日以降に生まれた人・・・・・・・・・・ 2 回

規定通りに受けている人は 80～95%程度と言われており、自分が規定通り受けているかどうかは、母子手帳で確認してみてください。抗体を十分持っているかどうかは血液検査で調べることができます。不安な方は抗体検査を受けて、抗体が不十分であれば再度予防接種を受けるようにしてください。

麻疹の抗体がなければ前述のような症状がすべてそろそろ「典型的な麻疹」にかかります。予防接種を 2 回行って抗体価（免疫の力）が十分高ければ麻疹にはかかりません。抗体はあるけれども不十分な場合には症状がすべて揃わないことがあり、「修飾麻疹」と呼ばれる軽い麻疹になってしまいます。本人にとっては軽いことはいいことなのですが、発疹が出ないため普通のかぜだと思い込んでしまい、知らず知らずのうちに感染源になってしまっている場合もあります。感染を拡大させないためには、修飾麻疹の診断は重要です。典型的な症状であれば診断は可能ですが、非典型的な「修飾麻疹」を症状だけで診断するのは困難です。「周辺に麻疹の患者がいる」、「外国（麻疹流行地）からの帰り」、「潜伏期間」、「年齢」、「ワクチン接種歴」などの情報から麻疹を疑い、最終的には血液検査（遺伝子検査）で診断します。

麻疹の特効薬はありませんので、かかった場合には症状を抑えて体力を回復させる治療が中心となります。麻疹の感染発症を防ぐ唯一の予防手段は、予めワクチンを接種して麻疹に対する免疫を獲得しておくことです。

- ①子供には、麻疹の予防接種を必ず受けさせてください。
- ②1 回しか打っていない人は 2 回目の接種をお勧めします（自費になります）。
- ③妊娠前に抗体価を測定し、抗体価が低ければ、妊娠 2 か月以上前に接種してください（妊娠中は接種できません）。
- ④東南アジアなど、麻疹のなくなっていない国に海外旅行をする場合には、抗体を調べ、抗体がないか不十分であれば接種しておくことが望ましいです。

もし麻疹を発症したかもしれないと思われた時は、医療機関に電話連絡した上で、公共交通機関の利用を避けて受診してください。

風疹は「三日ばしか」とも呼ばれ、その別名のとおり症状は軽めです。風疹に感染すると約 2～3 週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。子どもでは症状は比較的軽いのですが、大人がかかると発熱や発疹の期間が長く、関節痛など症状がひどいことが多いとされています。まれに脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症が、2,000 人～5,000 人に 1 人くらいの割合で発生します。特に問題となるのは、妊娠 20 週頃までの妊婦が感染すると眼や心臓、耳等に障害をもつ子どもが生まれることがあります（先天性風疹症候群）、この時期の感染は避けなければなりません。妊娠 1 か月でかかった場合 50%以上、妊娠 2 か月の場合は 35%が先天性風疹症候群になると言われています。



風疹ウイルスは麻疹のように空気感染ではありませんが、その感染力はインフルエンザの 2～4 倍と言われており、非常に強力です。かからないようにするには予防接種が有効であり、ワクチン接種によって 95%以上の人が免疫を獲得することができ、2 回接種を受ければ 1 回の接種では免疫がつかなかった人にも免疫をつけることができます。平成 2 年 4 月 2 日以降に生まれた男女は、2 回の予防接種を受けられるようになりましたが、それより年齢が上の方は受けていても 1 回だけで、十分な免疫がついていない可能性があります。生年月日と予防接種の状況を下に示します。予防接種が該当していても受けなかった場合もありますので、母子手帳が残っていれば自分が予防接種を受けたかどうか確認してみてください。

昭和 37 年 4 月 1 日以前生まれ	予防接種なし
昭和 54 年 4 月 1 日以前生まれ	女性のみ中学生の時に学校で 1 回集団接種
昭和 62 年 10 月 1 日以前生まれ	男女とも中学生の時に 1 回接種対象になったが 個別接種だったので接種率が低い
平成 2 年 4 月 1 日以前生まれ	男女とも幼児期に 1 回接種となり接種率は高い
平成 2 年 4 月 2 日以降生まれ	男女とも幼児期に 2 回接種となり接種率は高い

自然感染でも免疫はできますが、自分では風疹にかかったことがあると思っていても、別の病気だったのを勘違いしている可能性もあります。記憶があいまいな場合は、採血による抗体検査を受けてみましょう。

最上町では 22 歳以上の妊娠を希望する女性と夫、同居家族の方は、無料で風疹の抗体検査を受けることができます。先に健康センターで手続きが必要です。また抗体価が十分でなかった場合は、予防接種の費用が 5,000 円補助され、麻疹・風疹ワクチンを 4,720 円で受けることができます。(2019 年 2 月現在)

妊娠出産年齢の女性が風疹のワクチンの接種をうける場合には、妊娠していない時期（2 か月以上前）に接種を行い、その後 2 か月間の避妊が必要です。妊娠中は予防接種を受けることはできません。

夫が風疹にかかって妊娠中の妻に風疹をうつしてしまうと、その赤ちゃんは先天性風疹症候群となって生まれる可能性があります。風疹の予防接種を受けたことがない場合や抗体価が低い場合は男性も予防接種をうけるようにして下さい。妻がすでに妊娠している場合でも、風疹の予防接種を受けて大丈夫です。ワクチンのウイルスが周囲の人に感染したという報告はこれまでになく、厚生労働省でも積極的な接種を推奨しています。

麻疹と風疹の抗体価の判定

	抗体価陰性	抗体価陽性 (基準を満たさない)	抗体価陽性 (基準を満たす)
麻疹	EIA 法 : 2.0 未満	EIA 法 : 2.0~15.9	EIA 法 : 16.0 以上
風疹	EIA 法 : 2.0 未満 HI 法 : 8 倍未満	EIA 法 : 2.0~7.9 HI 法 : 8 倍、16 倍	EIA 法 : 8.0 以上 HI 法 : 32 倍以上
予防接種	接種が必要		不要

編集後記

院長 永井俊一

私は小さい頃に麻疹に感染したようですが、自分では覚えていません。風疹は医師になって 3 年目にかかりました。全身に赤いブツブツが出てものすごくかゆくて、熱も高く、目まで真っ赤になってかゆくて、自分では診断できなかったため何がおこっているかわからず、死んじゃうんじゃないかと思ってしまいました。3 日ばかりとは言われますが、大人だったので 1 週間以上休まざるをえませんでした。自分で一度経験すると忘れません。でも小児科が専門ではなかったので、医師になってから今まで麻疹は一度も診たことがないんです。麻疹の流行がニュースになっているので、自分の頭の中を整理するためにまとめてみました。

診療のご案内

	月	火	水	木	金	土
午前						
午後		休診	休診			休診

 午前の診療は 7：30 から 12：00 です。

 月木の午後は 14：00 から 18：00 です。

 金曜の午後は **16：00** から 19：00 です。

- ・ 仕事で診療時間内に受診できない方のために、隔週で金曜日の19：00 から 20：00 に予約外来を行っています。ご希望の方はお問い合わせください。
- ・ 土曜日は山形大学の今田先生（腎臓・膠原病専門）と渡邊先生（循環器専門）の外来があります。（院長は休診になります）
- ・ 第3水曜日の午後は大腸内視鏡検査を行っています。一般の外来はありません。

無料 Wi-Fi をご利用いただけます

永井医院の待合室などで無料のWi-Fi をご利用いただけます。

SSID：nagai-clinic

Password：clinic461511

待ち時間を少しでも快適にお過ごしいただければ幸いです。